（明治四十一年十二月三日第三種郵便物認可）（日刊）月曜及祭日の翌日休刊　明治四十二年十二月一日（水曜日）　第二百七十六號　（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十二年　紀元二千五百六十九年
本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月十三錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一圓金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所　京城新報社

甘茶澁茶

●螺線狀に繰り返す●

歴史は繰り返へす。而かも同形に同事を繰り返へすにあらざること、猶は春夏秋冬の巡て窮りなく、年々歳々花相同じきも、歳々年々同じからざるが如し。繰り返へさるゝ歴史は、恰も相同じきものゝ如くに見ゆるも、其は唯見ゆるのみ、歴史は平面に繰り返さるゝものにあらず、寧ろ螺線狀に繰り返へさるゝものなり。

▲ズルキが勝なり●●●●

人を欺く者は人に欺かれず、己れを以て人を忖れはなり、人を欺かざる者は人に欺かる、人を以て己れに比すればなり。人を疑ふ者は人に亦た疑はる、眞意を隱掩すればなり、人を疑はざる者は人に亦た疑はれず、衷心を披瀝すればなり。而して人を疑ひ人を欺く者は常に時めき人を欺かず人を疑はざる者は常に奇禍を得。世はドコ迄も正眞は損なり。世はドコ迄もズルきが勝なり。

▲人毎に交る●●●●

上下貴賤なしなべて一樣に交際すると云ふは嘘なり。又た出來べくもあらず子の父母に對する、尙ほ各々同じからず。兄弟姊妹亦た各々之を異にす。矧や他をや。賢ならば賢として之に接し愚ならば愚として之に交り、親ならば親として之に親しみ、疎ならば疎として之に應ず、是れ處世の秘訣なり若し夫れ詐僞者に對するに詐僞を以てする亦た中心貫くるに誠を以てするものと謂ふ、何の妨げか之れあらんや。

雜報

海牙事件再演か

一昨年和蘭海牙の平和會議に際し輕擧妄動を事とし益國步の艱難を招きたる李相卨、李瑋鍾の徒は頑迷の夢未だ醒めやらず又もや來春開催さるべき同會議に就き再び大に排日　聲焰を擧げんことを謀り目下密に京城同志と謀を通じ準備オサ〳〵怠りなく既に此程も其旅費の一部として募り聽たる五千圓中の四千圓は淸商の手を通じて巧みに浦鹽の同幹部に送られたるが尙は此際一部韓人の其擧を賛し募金に應ずる者尠なからずと傳へらるゝが首謀李相卨は同事に必要なる適當なる通譯を覓めんが爲め一箇月以前上海に渡り居る間に忠淸道淸州郡住前進士金德元なる者が英語に精通せるを耳にして直に信書を發して同人を招きたるを以て金は今より廿日程前上海に至り間もなく李と同道浦鹽に入りたるが來春此行に加はるべき同志の數四十名に達する由なれば同會議開催の晩には頑迷不靈の韓人共如何なる騷動をか演出するやらん自ら利刄を頭に加ふる結果とならざればよきがと竊に憂ふる韓政客も在と（日韓通）

地方通信

▲釜山通信

△電話改設●●●　最近の調査に依れば釜山の電話加入者は現在六百九十九名ありて僅かに七百名中一人を缺ぐの多數なり而して之に使用の電話機は單線單式にして殆んど五百內外を以て機械力の限度とするを以て約二百內外は限度以上に應用せらるゝ目下の有樣なり隨つて通話の第三者に漏るゝとか若くは交換の場合何番々々と連呼しても尙は數次相違の事ありて苦情續出して其苦情の焦點は交換手の缺點にはあらずして機械の缺點に歸せざる可らず然らば之を改正して缺點を補ふには外部のみにても無慮五六萬圓の巨額を要するも近來釜山港の繁榮力は著しく增進して每年百內外の新加入者常に次ぎ次ぎに申出るの盛況にして今日の比例は五戸に對して電話加入一戸の割合なり現時の如き狀況を以て推行する時は到底如何とも爲し難き次第なれば寧ろ此際積極的の改新を期し現在の單線單式を改めて複式となし之をコンモンバタリー即ち京城のと同一にせんと云ふにありて既に志賀局長よりは繁榮會の評決に基き其筋に向つて申請中の由尙ほ此の複式は頗る進步したる者にして日本にては京都及び東京芝區の幾分に使用せる外は今日にては僅かに京城の一箇所なりと序に電話料の前期內に納附するは約半數にして其半數の督促に三人の事務員をして五時間の通話を要する由に付き相互の經濟上宜しく料金の納附を怠らざる樣にありたきものなりと云ふ（釜山通信員）

▲木浦通信

△米●　本月十二日迄の分は既報の通りで以來引續き活潑なる廻着を見ざるは餘りの安値に農家の賣惜と時期の早きとに依るならん因に十三日より一昨日迄で十日間の廻米は籾四千五百石玄米五百八十叺白米二百石前後なりと云ふ

△棉●　は引續き好況にて其の後の廻着高は二十日八百七十一個二十一日四百五十八個二十二日六百五十五個二十三日七百六十個二十四日五百二十個此の累計實に二万三百餘個の多きに達せるが十二月以前に斯かる多數の廻着を見るは開港以來の盛況なりと云ふ殊に相場が七圓五十錢以上八圓の間を往來し益騰貴の一方なる爲め廻着は從つて益活潑なり此の多數の出廻りに伴ひ買出のため幾何の貨幣が田舍に流入せるかと云ふに少なくも已に四十萬圓近くに上りたるならん此の割合にて本年度の豫想出棉高三萬個以上に達すとせば優に六七十萬圓の多額を見るべきか斯く短日子に多數の出棉は未曾有の事とて包裝用の木棉に缺乏を來せる位なりと（木浦通信員）

和歌募集

勅題「新年雪」

選者　九阜館去留

何首にても隨意、用紙用箋類も又御隨意の事、締切期限十二月二十日、發表は四十三年一月元旦の本紙上を以てす、同好の士奮て投詠せられんことを希ふ

十一月廿日　本社編輯局

鎮西八郎

第四十三席　伯山改　神田松鯉口演

折柄又もや多くの島人、法螺貝を吹き手に各々長き竿を携へ彼方の山間より數十疋の牛馬を追ふて參ります、其內一疋の大なる牛あつて喊の聲にも恐れず、法螺貝の音にも驚かず、走る鼓膊より早く數十人の群の中へツ、、、、、、、と眞一文字に突いて掛かれば、大勢の男達もパッと左右へ別れ、慌て忙いて逃惑ふ、牛は尙も追來りて後れて走る一人を突倒さんとなすので爲朝は韋駄天の如くに走り寄り、突如其牛の左右の角へ双手を掛け、總身の力を兩腕に籠めて、エイと許りに捻伏せ給へば、双の角はボッキと折れて、牛は仰向けさまにコロッ、コロッ、コロッ、コロ〳〵〳〵〳〵と地上を一二間顛轉つゝ、ドッと反起んとする處を、片足揚げて其頭を踏んで動かさず爲「さア早く來つて繩を掛けよ」と言はれますれば、人々走り來り「ソレ頭を縛れ」「イヤ、兩足を縛れ」とガヤ〳〵と立騷ぐ、爲朝打笑い給ひ「ヤア汝等は牛を縛する方を知らぬな、牛を縛するには鼻の兩孔へ綱を通し、斯樣〳〵に致せよと敎はられ、漸く鼻の孔へ繩を通して縛することを覺ゑました、然るに又もや前面の山間より一匹の荒馬飛來るを爲朝は信と見給ひて行違ひさま鬣を掴み閃き跨がり、傍らなる島人の持ちたる竹竿を取るより早くビシーリ一鞭當てたるとにて、草原をば二三度乘廻して居たが、突如野牛野馬の群へ突入なし、竿を奮つて丁々發止、ヒシーリ〳〵と打つて廻はれば、牛も馬も泣き叫けびてコロリ〳〵と大地へ打倒れる頭へ繩を掛けさせ忽ちのうちに五六十匹の牛馬を打据へて谿め捕りたる其早業と剛力に、島人等且驚き且悅び皆地上に拜伏なす、爲朝はヒラリと馬より飛下りて悠然として立ち去らんとし給へば、多くの島人のうちより四五人のもの進み出で「オヽ暫らく御待ち下されませ」爲「何だ」男「唯今貴方樣の御働らき人間業とも思へず、神か佛かと唯々恐れ入る外はございません、然るに此の島の代官、三郎太夫忠重と云へるは、島民を苦しめ虐げますするのみで少しも憐れむと云ふことなく、我等は彼が肉を啖はんと思ふこと茲に數年でござりまする、願くば今より君此島の主となり給ひ、是より直ちに三郎太夫の邸に押寄せ、彼に詰問切らせて日頃の怨みを散じたく存じまする」と異口同音に申しました、爲朝聽き給ひ「汝等我れに心を寄するとならば其願ひを聽届け遣はさん、我れ今流人となれど淸和天皇の後胤にして八幡太郎の曾孫なり、又此島は朝廷より我れに賜はりたる領地なれば、我れ主人たること無論なり、然るに忠重が無禮をも咎めず今日まで汚くろしく小屋に住居しは、我が傷痍癒へざりしが爲めなり、最早傷痍も癒へたり、汝等其心ならばイザ走向へッ」と仰せて、再び裸背馬に打乘り給へば、一同も大に喜び「ソレッ」と言ふなり馬の前後に從ひ、或は鎌、斧を携へ、或は槍、竹竿を持ち鬨の聲を揚げて忠重の邸宅へと押寄せたり、三郎太夫忠重は大に驚き、俄かに烏帽子を被りて娘彫江と共に門前まで出迎へ、恭しく頭を下げて爲朝に向ひ「是れは御曹司、暫らく御憤を休め給へ先きに強顔くなし奉りしは朝命にて據なし今日より此忠重先非を悔ひ、御曹司の幕下に從ひ奉るべし、永く御曹司の御家來となり申さん」彫江「御曹司若し妾が日頃の志をしろし召さば父が一命を助け給へ」と大地に兩手を突いて願入りまする、爲朝は『忠重、民を宛けたる罪許し難し然ども既に其過ちを悔ひるに於いては、娘彫江とやら云へるものゝ信なる行爲を以て父の罪を許し遣はさん』之れを聞いて忠重も彫江も大に喜びまして、早速爲朝を忠重の邸宅へ迎入れ娘彫江を妻にして大に厚遇致しました、爲朝は元來女色を好み給はざれども、彫江の志に感じて常に傍に侍らせ、其內に新たに邸宅を築き、夫れに移りて住み給ふ、三年の中に二男一女を生み、長男を爲丸、次男を朝稚、女子を島君と名付けられました。

韓人の保護色

京城新報

生物殊に動物にありては、ダーウヰンの所謂自己の生存を容易ならしむるが爲めに保護色なるものを有す。蝗虫の色にして草色に相似たる、尺蠖の褐色にして枯木に彷彿たる、水貴の砂色に紛はしき、土鼈の土色に似通へる、樹梢に囀づる目白の翠色なる、隴間に徨ふ鶉の燕色なる、皆な是れ自己の生存を安固ならしめんが爲めの、所謂保護色なるものにして、各自は其の居る場所の色に自己の色を同じうして、外敵の襲撃を避くるなり、然れども此等は一定不動の固有の色彩を有するに過ぎずして、場所に隨て其の色を變ずること能はざれども、彼の濠洲に棲息するカメリオンの如きは、其の行く所に隨て色を變じ、隨所に隨所の隨色を表はし、以て外敵の目より避け、自ら其の生存を保護す。自然の妙工至れりと謂つべし。

余輩は亦た韓國人が、此の生物の保護色殊に、此のカメリオンの隨所に隨所の隨色を現はす自然の妙工一種特得の保護色を有するを認む。

韓民は遺憾なく韓民特有の保護色を發揮したり。韓民は此事變に遭うて、或は國民代表者をして日本國民の憤怒を釋かしむべしと云ひ、或ひは皇帝を渡日せしめて日本に謝せしむべしと云ひ、或は頌徳碑を樹てゝ國民の衷意を示すべしと云ひ、或は韓國統治の權を擧げて日本に委任すべしと云ひ、或は進で合邦連結すべしと云ひ、或は遂に日本臣民となりて國民の幸福を圖るべしと云ひ、或は何し或は何し、以て日本上下の心を和ぐべしと云へるが如き、正に是れ韓民が元明時代以來數百年間の久しき鍜ひに鍜ひ上げたる、此の保護色を發揮したるに過ぎざるなり。而して此の保護色を發揮するに當てや、韓民は敢て我日本國民を欺き、ペテンに掛けんとの大野心より發揮したるにあらずして、彼等は唯自然に己れの特性として知らず識らずの間に、此の事を敢てせしに過ぎず、彼等が此の事を敢てして怪しむ所なきもの、決して屈辱に恬然たるが故にもあらざるなり。彼等は他人類に類なき、恰もカメリオンの有するが如き一種不可思議なる此の保護色を有するなり。然るを我邦人が動もすれば、韓民が古來よりの此の特質を覺らず、異䑓に之を受け取り、異䑓に之を討究し、此の際韓國を云々すべしなど云ふが如きは、恐も亦甚だしからずや。而して韓人が日本の眞意を誤解し、相も變らず、此の際特有の保護色を無暗に發揮するは、韓民の特質とは云へ、餘りに見苦るしく、何の利きも目もわからざるものを、韓民の特性を知れる我日本に向て此手段を弄するが如きも、亦た恐い骨頂と謂ふべく、韓民は我日本は我日本が執るべき一定の方針によりて進み、終始一貫渝はるなきを覺り、足掻かず藻掻かず、天の命ずる所に從び、事の成行きに任せば可なり、豈に敢てカメリオンを學ぶを要せんや。見透されては、自然の妙工も逐に徒なし。余輩が此言を爲す所以のものは實に韓國を思へばなり。韓民其れ誤まる勿れ。

東京電報

▲皇孫殿下の行啓　華族會舘に行啓打毬を御覽あらせられたり（廿九日）

▲賀陽宮侍從差遣　賀陽宮邦憲王殿下危篤に付き陛下には軫念あらせられ侍從を差遣し御見舞ありたり（同上）

▲蠶業組合の大會　農商務省會議室に於て開會四十二年度豫算更正案を附議したる後會頭に大谷嘉兵衛氏を撰定せり（同上）

▲勸銀總裁の任命　山本達雄氏は勸業銀行總裁を仰付けられたり

▲伊公遺跡の調査　大日本選書奬勵會幹事山越弘麿氏は神靈として有名なりし伊藤明瑞を伴ひ關西地方に於ける伊藤公遺跡調査を爲すため出發したり（同上）

▲内田大使の赴任　米國駐箚大使内田康哉男は本日夫人同伴新橋を發し赴任したり（同上）

▲秋月公使の榮轉　白耳義全權公使秋月左都夫氏は特命全權大使に任せられ墺國駐剳を仰付けられたり

▲我裝艦術の進歩　横須賀海軍工廠の建造に係る軍艦薩摩は既に艦底に對する工程を終へ其武裝の大体を完成したり各機關試驗の成蹟は外國製の香取鹿島以上にして日本海軍工廠の技能を發揮せり（同上）

▲東京の天候不穩　昨夜時ならざるに雷鳴し市内三個所に落雷ありたるに加へ今朝また地震ありたるを以て人心恟々たり（同上）

▲矢吹中將の重患　矢吹陸軍中將の病態危篤に陷り石黑軍醫總監佐藤博士詰切加療中なり（同上）

▲米國領事の誤解　奉天駐在米國領事が「日本政府は滿洲へ盛んに無税品を輸入し米清貿易を沮碍しつゝあり」と本國政府に報告せるに對し萩原外務省通商局長は「右は滿鐵事業に要するものゝ無税なるを誤解せるに因るものなり」と言明したり（同上）

▲本野大使の歸朝　駐露大使本野一郎男は今朝歸着したり（同上）

大連電報

▲對滿政策の攻撃　大連駐在の米國領事は日本の對滿州政策に關し詳細なる攻撃の報告を本國政府に致せり（廿九日）

▲大連貿易の發展　大連税關の收入本月に於て九十萬兩に上り昨年同期に比し倍増の勢を示せり

北京電報

▲北京政界の暗闘　直隷總督端方氏罷免後の北京は宮中府中の官吏暗闘益々激烈を極め近く政治界に一大變亂を生ずべき摸樣あり

雜報

日韓の關税問題
（櫻井關税局長の談）

韓國を指導啓發するの地位にある我國の對韓大方針としては兩國間關税の共通は寧ろ得たるものなると同時に彼我の經濟上に於ても又利益ありと信ずれども更に仔細に觀察すれば韓國目下の關税收入は約二百萬圓にして其中我國よりの輸入品に對する收入約二百萬圓に上り居れるを以て兩國間の關税を共通するに於ては直に韓國の財政上約二百万圓の歳入減を見るべし之れ韓國財政の堪へ得る處なりとするも韓國の貿易上の關係は彼の豪濶とは頗る其趣きを異にし單純なる出航税の課税により到底其目的を達し能はざる事明なる事實は大に講究を要すべき問題なり即ち假りに兩國間の關税を撤廢せば我國に於て多額の消費税等を賦課し居れる各種の産業は消費税を賦課せられざる韓國に於て經營せられ内地に輸入せらるゝに至るべし茲に於て内地産業保護の目的より之等の輸入品に對し内地に於ける消費税に相當する税率を課税せば何等兩國關税撤廢の實なく然らば韓國に於ても内地同樣の消費税を課税せんか單に兩國間の關税を共通せんが爲に苛重なる負擔を韓國民に強ゆることゝなるの缺點を生ずべし更に他の方面より之を見るに兩國の關税を共通せば第三國たる歐米各國の貿易品は我國關税の課税を免れんがため先づ其貨物を一旦韓國に輸入し然る後我國に轉輸入するに至るべし之等の脱税を取締らんとせば勢ひ韓國よりの輸入品に對しては特種の機關を設けて韓國の生産品と識別區別するの要あり脱税豫防の方法として他に良法なしとせば斯の如きは實に煩雜に堪へざる處なるのみならず何等兩國關税共通の精神を完ふし能はざる結果を見るべし殊に第三國たる各國は兩國關税共通の結果韓國への輸入品に對し我國の高率なる關税率を適用せらるゝは最も苦痛とする處なるべければ之を外交上の問題より見るも問題の前途は大に講究の餘地ありと信ず

清居留地問題交渉

韓國に於ける清國專管居留地設定問題は初め統監府と馬總領事との間に協議中なりしが警察權問題に關し兩者の意見相反し遂に本國政府直接の交渉に移したるが今回清國政府の讓歩に依り協議纏まり再び當地駐在領事と統監府の間に細則の協定を爲す事となりたるを以て馬總領事は卅日午前十一時統監府に小松外務部長代理を訪問し協議せり

唱歌体操の改正

從來各學校に於て教授し居れる唱歌の歌詞中排日的不穩の文字尠からず幼稚なる學童の腦裡には唱歌の歌詞尤も其思想を左右し易きを以て當局者は目下一般普遍的唱歌を編纂中なり尚体操の如きも兵式体操をのみ行ひ毫も基本的体操たる徒手体操等を閑却せるより今後は之等に對し嚴重取締をなす由

曾禰統監の招宴

曾禰統監は入京中の日下第一銀行取締役市原韓銀總裁、宇佐川東拓總裁、荒井度支部次官、藤原度支部銀行課長、野阪事務官其他統監府の高等官二十餘名を統監邸に招待すべしと

●鄕校所管問題落着

韓國政府が國有土地整理著手以來隱結或は管理曖昧の土地山林發見せらるゝもの夥しく是等の處分に就ては勿論舊慣を酌み來歴を調査して關係地方民の誤解を招かざる樣注意す可き筈なるが茲に學部所管に屬する鄕校の所有土地に就て同部と度支部との間に衝突を來たし過日參與官會議に於て俵次官と鈴木次官代理との間に一大激論を爲したる事あり元來該鄕校所有の土地は昔時孔子教旺盛の際各道郡に設置したる學制にして之が維持の爲め付與したる基本財産なり然れば多年の慣習上該學制尚ほ未だ廢止する能はざる以上は其土地は當然鄕校の私有にして之を國有地に編入するは少しく不穩の嫌あるのみならず徒らに民心動亂の虞れある爲め學部にては極力之に抗爭し數日前の參與官會議に於て遂に學部所管として存續するに決定せり而して該土地は數千町歩の多きを算せられ居る爲め之が管理の方法に就いては適宜の法規を制定す可く目下調査中の由なりと

●測量業者取締方針

近時測量業者にして山林所有者が農商工部に提出すべき書類に添付すべき圖面は見取圖にて足るべきに實測圖にあらざれば不可なりと言ひ觸らし強て測量を依頼せしめ又は土地測量を強制して多額の費用を強請し一方組合を組織して獨專權あるが如く言ひ居れるが過般開會したる警察部長會議に於ても各道とも其弊害あるに依り之れが取締を嚴にすべき必要あるより測量業者取締規則を制定し道令を以て發布せんとて内部大臣は各道に向つて訓令を發したるが測量業者は觀察道の許可を受けざれば測量に從ふこと能はず又一度許可されたるものと雖も不正の行爲ある時には之れを取消す可しと云ふ

●內地旅行者不心得

韓内地の旅行は不便なることと多きのみならず現時は危險なるを以て官公吏又は一私人と雖も旅行するに當りて憲兵分遣所又は駐在所へ依頼するときは公務に差支なき限りは護衛し又分遣所内に宿泊せしむる等勉めて便宜を與へつゝありと雖も是素より好意を以てなすことにして軍隊又は警察官は義務を以てこれをなすに非ざれば旅行者たる者は好意を感謝すべき筈なるに旅行者の中には軍隊の待遇に關して不平を云ふ者ありそれが行商人か主事ならば又怨すべしとするも奏任官等にして猶ほ不平不滿を唱ふる者ありと云ふに至りては不心得も又甚しと云ふべきなり

瀛船出入の遅延

三十日午前九時三十五分釜山より鐵道廳に達したる電報に依れば二十九日夜入港すべかりし關釜連絡船會下山丸は風波の爲め漸く三十日朝八時十分入港し又三十日入港すべき對馬丸は約三時間遅延入港の見込みなる由尚大阪商船會社群山丸は二十九日釜山出帆群山木浦仁川に向ふ筈なりしも三十日午後一時出帆に變更し元山、城津、清津行の城津丸も三十日出帆の豫定を變更して本日出港することゝなれりと

韓國銀行の披露

新設韓國銀行が一大披露會を催すことは既記せしが、倍々酸寒に向ひしを以て其時期を早め來る四日午後一時半より南大門通りの同新築場に於て盛んなる披露會を催すに決し目下準備中なるが急いで期日を繰上げしを以て案内狀等も今以て發送しあらざるも當日迄には官民多數の有志に招待狀を發する由

●仁川水原間の運輸

仁川より水原に發達すべき貨物は從來鐵路を取りしが京畿道觀察府は茲に見る處あり水原より四里を隔て紫鮎塢濱汀浦と稱する個所の間に大道路を修築し車馬の通行至便になりたる結果仁川よりの貨物は水路右濱汀浦を經て水原に運送する方鐵道便より運賃も安價なるのみならず總てに於て利便なりと

●店員奬勵會表彰式

仁川店員奬勵會は從來詮定委員六名なりしが今回十名に增加すると共に模範店員調査の歩を進め本年内に盛大なる表彰式を擧行する筈なるが既に仁川市内にて模範店員として功勞を表彰さるべき資格を具備する者六名ありと云ふ

●一銀取締役の招宴

第一銀行取締役日下義雄氏は既記の如く二十九日夜花月樓に於て日韓兩銀行支配人副支配人並に各新聞通信社員を招待して盛宴を張りたり開宴に先ちて日下氏の挨拶蜂岸本社長の謝辭あり各自歡を盡して散會せしは十一時頃也し

●民長手當と代理者

後任民長決定迄は林田助役其代理を行ひ居るが此期間に於ける民長の受く可き手當は當然代理者に給與するも法規上何等差支なく又然る可き性質のものなれば理事廳に於ても異議なきを以て不日民會に之れが承認を求む可しと

●滯納税徵收の成績

京城民團に於ける滯納者は既報の如く四千口の多きに達し國税滯納處分法に基き現に督促中なるが爾來の成蹟を聞くに督促狀を發すれば直に納付し來り其厚顔驚く可きも結果は良好なる由

●農商工部增築廳舍

農商工部にては本廳舍狹隘なる爲め山林局及び度量衡課の如き遠く隔在して其不便尠からざるを以て目下附近に一棟增築中なるが來春迄には落成せしめ全部を一箇所に集合し得べしと云ふ

●免許漁業審査決定

農商工部にては廿九日重要事務審査會を開き元山城津間に於ける免許漁業百二十件を審査決定したれば次官大臣の決裁を經順次免許指令を交付す可しと

●欠員中の郡守任命

目下欠員中の郡守は全道を通じ十名なるが郡守の曠職は地方行政に多大の影響あるを以て内部は近々地方官資格審査會を開き夫れ〳〵任命すべしといふ

●木內次官中途引返

去る二十八日元山を出發して歸京の途に就きたる木內農商工部次官は航海中暴風雨に遭ひて進行する能はず二十九日再び元山へ引返したりとの報あり

●龍山度量衡課分室

農商工部商工局度量衡課は龍山に分室を設け破損器修理を行ひ居るが別項增築廳舍落成の上は本課に移轉すべしと

●統監邸の大臣會議

昨三十日は定例大臣會議日なりしを以て各部大臣、參與官は午後一時より統監邸に參集し曾禰統監も臨席したり

●日下取締役出發期

韓銀へ事務引繼ぎの爲め入京中の一銀取締役日下義雄氏は二日當地出發釜山に赴き數日間滯在の上歸東すべしと

●一銀支店長の招宴

前第一銀行仁川支店長太田三郎氏は三十日午後六時より仁川在留官民百二三十名を倶樂部に招待して盛宴を張れり

●齋藤篠田兩氏招待

統監府に於て間島事件に關係したる人々は三十日午後六時より齋藤元間島派出所長篠田事務官を清華亭に招待せり

●兩派提携の懇親會

三十日午後二時より黃州の一進會大韓協會員は一所に會して伊藤公追悼會を行ひ終つて兩派提携の懇親會を催せり

●大內代議士の延期

新歩黨代議士大內暢三氏は昨三十日出發東上の筈なりしが政務調査未了の爲め一日延期し今一日出發東上したり

●國庫剰餘金の支出

釜山警察署草梁出張所新營費として一千五百六十六圓國庫剰餘金より支出す

●岡內部次官歸任期

東上中なりし岡內部次官は初旬中に歸任する旨其筋へ通知ありたりと

●朴泳孝の入京準備

濟州島よりの所報によれば朴泳孝氏は近々上京せんと準備中の由なりと

●山形分隊長出張●　京城憲兵分隊々長山形中佐は門松二等主計を從へ往復約二週間の豫定にて揚州、春川、鐵原各分遣所管内巡視の爲今一日出發の筈

●戸叶薰雄氏歸社●　久敷く東上中なりし大韓日報社長戸叶薰雄氏は風波の爲め一日遅延今一日歸社する筈なりと

●信夫理事官歸任●　信夫理事官は廿八日より江華島巡視中の處三十日歸任

●西田社長の歸元●　元山毎日新聞社長西田眞三郎氏は廿九日釜山へ向へり

期成會の發會式

鐵道期成會發會式は愈々二十九日午後七時より京城商業會議所樓上に於て開かれたるが出席者二十一名にして山口書記長代理の報告ありて中村再造氏を坐長に推し會議の結果發起人五十四名中にて賛成者四十七名を創立委員として其内にて五名の常務委員を置くことに決し選擧したるは中村再造、山口太兵衛、大村安太、古城管堂、和田常市の五氏當選し別に幹事二名を置くことに決したるも當夜は之れを選擧せず又別に會長副會長及び委員長を置かずして會務を常務委員に一任することに決して午後十時散會したり

龍山通信
（三十日支局報）

▲民團の會計檢査●●●●●　昨三十日午後二時より龍山民團定期會計檢査を執行せらる

▲宅地税等級調査●●●●●　從來龍山民團にては宅地税を均一に賦課し居りしが今回街區の狀況に依り等級を設くるの必要を認め豫算案の都合上取急ぎ調査中

▲度量衡器に就て●●●●●　度支部度量衡課龍山分室に就て度量衡器、製作、檢査、分配等の狀況を聞くに從來同課にて製作せし分は既に各地方に分配して賣捌かせ其后の分は日本に於て入札に附し既成品を買入れ同課にて檢定の上賣捌きを爲すことゝし既に第一回の入札を行ひ度器は德島にて他は東京に於て有名なる製造人三名に命じて作製せしめ居れり然れども又或物は原料品を輸入して同課に於て製造せるもありと尚同課にては人民の依頼に應じ同器具の修理を爲し與ふべしといふ▲而して新制の度量衡器分配に就ては各地方にて賣捌人を置きて販賣せしめ居れりされば韓内地の隅々迄行渡り居る譯なり（唯江原道にのみは未だ賣捌所無し）と之れと同時に▲今回政府の特許を得ざれば輸入し能はざることゝなりたる結果從來の如く日本に於て製造したる度量衡器にして未檢査のもの若くは檢査不合格のものゝ輸入を確實に取締ることを得べし云々

▲治外法權▼

近頃滑稽なるは京城民長の候補推撰問題である、監督官の諮問を受けて既に數旬其間に現はれし候補者の呼聲は曰く甲曰く乙而して今以て何等決する處がない樣だ、其れも其筈議員中の大半は皆後釜を覗つて居るからださうである▲大屋鐵道廳長官が臨津江工事に關して請托を受けたとか云ふ事は大分八釜敷くなつて來た樣だ、裏庭へ小公園を造つたと云ふのさへ面白からざる説を立てられた大屋氏は今亦斯樣な説を立てらるゝのは甚だ以て氣の毒千萬である▲大屋長官と云へば氏が曾つて古市前長官より長官に推選されし時、時の統監伊藤公は古市氏に向ひ「君の推選だから間違ひは無からふが一体大屋と云ふ男はドンナ男か」と問ひ返したさうで此時分には未だ大屋氏は伊藤公には顔さへ見られて居なかつたと云ふ事だ▲此間小宮三保松君に依つて太皇帝は親日となつた樣證明されたにも不拘、李允用の家に親しく出入せる李完鎔と云へる男は此頃或人を捉へて太皇帝が常に海外に在る排日派と機脈を通じ諸方に探偵を放ち宮中の事一として信することは能はざるを以て人民は非常に慨歎しつゝありと語つたさうだ李完鎔の言元より信するに足らざるも三保松君の證明も余り富にはならぬテ

吉凶録

本町五丁目　三一舘判斷

十二月一日舊十月十九日五黄佛滅乙未なる●△一白　不事の日開始の事凶[illegible]●養子共同組合相談依頼等相應の效果を擧ぐ其他平凡と●△三碧　闘諍紛紜爭端起り易し貸借取引上に注意すべし△[illegible]射倖的行爲と酒色爭論を戒しむ盗難及横領注意すべし△六白●家庭内に小紛及小衆あり其他靜寧なり但し義と情に[illegible]て有利の日とす△八白●神經の運鈍くて不動産の買得は之を禁ず以外平凡△九●紫　隆運の日なり相談依頼婚姻等の斷[illegible]

[illegible]司法權委任に伴ふ本年度内に新築すべき警察廳舍四十一ヶ所及二十二箇所の大修繕を要すべき廳舍は殆んど落成式[illegible]

●市場税と同盟休業

江原道横城郡横城邑に於ては去る二十二日原州財務署主事出張市場税を徴集せしに邑内の韓人雜貨商二十餘名は同[illegible]を以て横城憲兵分遣所より憲兵出張し利害を説示したれば之に服し直ちに開店するに至りて立ち去りたる由

●天氣豫報（自三十日午後六時至一日午後六時）

北西の風晴

廿九日（攝氏）最高溫度　五四、〇

義親王訴へらる（一）

▲借用金を返済せずとて　韓國皇族として人も知る義和宮殿下が何事か弊なる事に於て債務を果さざりし爲め債務請求の訴訟を提起されたる事件あり事の起りより說出さんに去廿八年閔妃暗殺事件ありて後間もなく

▲殿下は亡命して日本に渡り侍從三品韓應履（變名清水一郎）及び同件に關與せし土田弘敏氏をして麴町區尾井町六に**一戸**を構へさせ氣慨ある自國留學生を集めて其衣食を給し金品を與へ給せしかば義烈悲歌の士來り投ずるもの頗る多く今や宮君と知る人の限り推し稱へぬはなかりけり　さる程に殿下漸くにして故國を慕ふの心生じ日々快々として樂まず去りて其頃より近侍の人々其

▲旅情を慰めん爲に狹斜の巷に誘ひたるに高貴の身の殊に名だゝる**美男**なれば何處に行きても**歡待措**かざる有様なるより殿下何時しか心を空に此花柳の遊樂に耽り給ひ中にも**赤坂林家**の尤物**林子**が殊の外の御寵に入りて山王の森に烏の鳴かぬ日はありても殿下の姿が赤坂に見えぬ日とてはなき所と見たる林家の女將林子に勸めて益す殿下に近かしめ奉らせ玉ひつゝ樣ためて獨り頗りに悦に入り居たり　されど金錢は空氣にあらず本國の宮家及び**宮內府**よりの**莫大なる送金**も

▲連日連夜の遊樂費には追付かず三十三年一月頃に至つて**非常の窮乏**と告げられたるより殿下は近侍に謀り土田氏の知合なる麴町區三番町六三東京機械製造會社取締石塚正氏に依頼したる所折節石塚氏には所持の金子なかりしより一應は斷りたるも強ての頼みに同町**高利貸業後藤**才一郎を紹介し高利貸借なるものゝ性質條件を語り、**公正證書**にて**若干金**を融通したるが其の後**期限**になれども元より**返却の道付**かず後藤は容赦なく**執達吏**を向け**家財**の

▲差押を執行する始末に孟宮君を御刷されたる殿下も之が爲に**失行暴露**し少からず面目を失はれたるぞぜまし殿下は之等の爲に益す窮乏せられたるより同年三月再び石塚氏に依頼し親ら其邸に若干の金を枉げられ**約束手形**の面に自筆にて「義和宮李堈」と記され**實印を捺**して兩度に**千三百圓**を**借受**けられたるが殿下は**間**もなく海を超へて**渡米**さるゝ事となり石塚氏には今次の謝禮とし仙臺平一反を贈られ**金子の事は何の話**もなくて其儘**日本の地を立去**られたり（つゞく）

兇漢の父安泰勳

△暴戾殘虐比類なき
△權勢に富む謀反人

伊藤公を暗殺せし兇漢安重根の父安泰勳と稱するは黄海々州東門外なる商家の家に産れたるが中年頃黄海道信川郡青溪洞と云ふに移り住め性質陰忍にして居常亂を愛する事甚だしく只管ら平地に波瀾を捲かん事にのみ腐心せる折柄恰かも好し東學黨蜂起して文化郡の九月山に據り勢ひ頗る猖獗を極めたるより安泰勳は時の觀察使に說きて東學黨勦滅を名として千有余名の有志を蒐めたるが討伐には赴かずして此等の有志を乾兒とし却つて民財を掠奪し良民を殺傷強姦し所在不逞の行ひをなし暴戾極りなきより時の度支部大臣魚允中は觀察使に命じ觀察使は更に巡兒を召集して安泰勳を討たしめたるも一擧にして擊退せられ這々の体にて逃げ歸りぬ斯くてはならずと更に海州の鎭衛大隊長閔泳吉をして大軍を率ひて討伐に向はしめしも安泰勳は恰かも擂鉢を伏せたるが如き要害堅固なる青溪洞に據りて能く鬪ひ毫も怯む色なきより閔泳吉も困じ果て敗殘の兵を收めて引返したりされば安泰勳は仵の青溪洞に引籠りて帝王の如め權威を揮ひ千餘八部下を股肱とし居たるが四邊の民は怖れ戰きて八方に逃走し糧道さへも絶たれたれば流石の安泰勳も弱り果て單身京城に來りて李夏榮方に潛伏し懇々情を明かして當路の官司へ說入るやう頼みければ李夏榮は八方に奔走し辛うじて安泰勳の罪は許されたり爰に始めて青天白日の身となりたれば忠質に生業を勵むか至當なるに彼は又らや件の千餘名の部下を引率して天主教に歸教し宣敎師なる佛國人ホンツックを說く爲め再度青溪洞に立還り廣大なる敎會堂を建立したりこれ實に表面ホンツックの歡に服したるが如く裝ひ却つて之を利用せん心組なればホンツックを神父なりと稱し又もや良民より掠奪を擅にせり之が爲め觀察使等の脅迫せられたるもの頗る多かりしぞ（以下續出）

新案　官費新婚旅行

▲度支部書記官吉松君の事

度支部書記官吉松憲郎君と云へば部內にも比稀れなる敏腕家なることは普にも聞へたるものなるが今回或る方の周旋にて牧山靜子孃と結婚の式を擧げ京城ホテルに於て其の披露宴を催されたる腐心せと聚傑迎ゆ俗ることとなればウッカリすると岡燒から如何な椿事を惹起さんも知る可らずと海洋は物騷だよぜ酸いも甘いも噛み分けた言葉を委細段まつて扨てこそ二十九日の披露三十日の旅立と態と二泊程延させたるなりさらぬだにチョンガー生活の單調なるに業を煮せる部內の誰れ彼れイヤ怒るまいことか憤慨するまいことか、彼れ吉松胡んするものぞ花はづかしの美人を妻とするさへ既に不埒千萬なるに手を携へて新婚旅行の途に上るとは言語同斷沙汰の限り歸つて來て見ろヤワカ其まゝに置くべきかとわらぬ所の力瘤を擦りて居るとかの噂なり、然るにも此のセチ辛い年度末韓政府には既に旅費がない筈で現に過日の日本派遣費も國庫剩餘金から支出せられた位なるが吉松君の新婚旅行費は何處から何うして支出せらるゝのか何れ君の旅行費も近々官報を以て裁可公布せらるゝことなるべしとか、新案官費新婚旅行と云ふも種を割れば何でもないことなり

▲電車の內（五）

ヨボが例の長い煙管で、ジル〳〵ズーと吸つては、プカリとやる、ベッ〳〵とやる、唾が胡麻鹽の、野羊式顎髯に穢い露の玉と綴つて居る、とガヤ〳〵と三四人、何やら婦らしいのが囀りつゝ乘込むだ、ペチヤクチヤ饒舌りては、キヤッ〳〵と笑ふ、顫て一人が、つかれてか、ズッと背伸して、ヨボを振返へり、ジロ〳〵と觀て一寸間をれいて『臭いよヨボ―』と不意に喚いて、仰山に眉に皺寄せ、ヨボを睨む、外のは聲に驚いて頭を擡げ、喚いた女の視線をば、ヨボが面に辿りつくや否『臭いよヨボ―』と一齊に浴せ懸くる、ヨボはキヨトンとして、ジル〳〵ズーのプカリとやる、と一人背い凄いのがスックと起つた、ツカ〳〵と寄るなり、煙管を引たくつて床へ叩きつけ、ポカンと呆れたヨボが面を、睨めつけて『馬鹿ッ』と怒鳴る、ヨボは倍々呆れて、チー

▲一昨二十九日夜の事なりしが豫て三十日新郎新婦は手を携へて南大門發列車にて新婚旅行の途に上られたるが右に付き大漢門邊に傳へらるゝ噂と云ふを聞くに元來同君は高度相が大阪造幣局貨幣試鑄視察の爲め渡日するに付き隨行出張を命ぜられたるものなるが粹度相の麗召とあつて序に結婚披露を濟ませたる後新婚旅行を兼ねて新婦を携帶して東上するところよければと云つて乃公の一行が夫れをベン〳〵と待つて居る理由には行かねば乃公等は一足先きに出立して岡山邊りに逗留して君の來るのを待つて居るから、さ云ふのは外でもない乃公は知つての此の歳ぢやで貴公等兩人が側に居て甘い所を見せたさて何んとも思ひはせぬけれども一行中には隨分と肥肉の始末に

集配韓人の生埋

▲犯人未だ縛に就かず

黄海道海州郵便局韓人集配人金應洙（二十二）は所羅面外五面に郵便物配達の爲め去る十六日局を出で十八日歸局すべき筈なるに其儘行衛不明となりしが捜査の結果彌勒面枳峴洞の路傍に兩手を縛せられたる儘生埋めにされたる無殘の死體を發見したるが郵便物は未だ所在不明なりとか其筋にては嚴重に犯人の捜索中なり

頑夢未だ醒めやらず

▲太皇帝の密偵政策

李允用の家に親しく出入せる李完鎔と云へるもの此頃或人を捉へて太皇帝陛下が常に海外に在る排日派と氣脈を通じ諸方に探偵を放ち宮中の事一として信ずること能はざるを以て人民は非常に慨歎しつゝあるが國家の爲め寒心の至りなりと滿面に憂色を浮べて語れり

趙農相の收賄說

▲觀察使を四千圓に賣る

安升玉と云ふもの觀察使に任ぜらるゝことに內定し居る由なるが其に就き農商工部大臣趙重應は金貨四千圓を收賄せりと傳ふるものあり

俠氣な仲居を蹴飛す

▲遊興費の請求を怒りて

一昨二十九日夜八時過ぎ龍山桃山遊廓內清水組建築事務所より婦人の悲鳴漏れ聞ゆるにぞ巡廻中の巡査立寄りて取調べたるに女は紀の國屋の仲居三宅よのといふ者にて前日清水組の安東某といふが紀の國屋に登樓し無一文にて支拂出來ず弱り居たるをきよのは氣の毒に思ひ勘定を引受けて其場を濟せしが其後きよのは都合ありて紀の國屋より暇を貰ひ歸國することゝなり爲め再三安東に前記立替金の催促を爲せども一向埒明かざるにぞ同役きよのは清水組に出向き安東に向つて手嚴しく談判を持懸けしに安東は御禮がはりに鐵拳を喰はしたればさてこそきよのが悲鳴を擧げたるなりと明りしが結局同組の清水周造といふ人が氣の毒がり勘定の七圓五錢を支拂ひくれし爲め無事に事濟みたり

韓人醫師總合會內幕

▲公然認可を與へず

開業醫に關する規則は既に一昨年より編纂に着手して脫稿せるが直ちに之を發布せば在來の開業醫にして打擊を被るもの尠からず斯くては徒らに人心を擾亂せしむるのみなるを以て當局者に於ても之が發布を見合せれるが法の不備を奇貨とし醫士總合會なる名目の下に私利を營まんとせる不逞韓人あり今其の內幕を聞くに京城の韓人開業醫三百五十名を網羅し醫士總合會と名付け會員より毎月金二圓づゝを出さしめ治療科、研究科を置き一般韓人子弟に醫術を敎授する由なるが斯くては今後發布すべき醫師取締規則とも抵觸するところ尠からず同會は既に第一回總會を開きたれど當局者は公然認許を與へざる方針なりと

●親不孝者の竊盜

去二十七日午後四時頃龍山元町四丁目四十一番戶武藤一作方にて家人の不在中一人の日本人忍入りて女持洋傘を竊取し逃走せんとする時折好く龍山署の栗林刑事が通り合せ有無を言はさず取押へて本署に引致し取調べたるに此奴は福岡縣三池郡銀水村黒田鶴吉（三九）といふ意氣地無しにて本年一月迄は青坡にて青坡湯といふ湯屋を營み居りしも維持出來ざる爲め老いたる兩親を置去りにして左官の心得あるより京城龍山の間をば此處に一日彼處に二日と手に口を添へて食ひ廻はり居りしも追々寒天に向ひ手の入れ場なく隨つて口の遣り場に困りて竊盜を働きし旨自白したり

●群山邦人の紛擾

群山尋常高等小學校敎師小谷、門脇兩氏の轉任に關し生徒は其の別を惜しみ父兄亦兩敎師を以て適任者なりと認め之れを以て校長の私的感情より出でたるものなりと爲し若し校長にして兩敎師を留任せしめずば理事官及民長に申請すべしと敎圍き寄り〳〵會合し居れりと

●博徒取押らる

龍山老松町十三番戶江森陸太郞方同居豆腐賣子なる山口縣玖珂郡柳井町松本増吉（三七）及神奈川縣中郡秦野村大島□□□□三名は一昨二十九日午後八時頃其の居宅にて弄花中龍山署巡査に踏込まれ捕縛され場錢二圓餘も花牌も押收されたり

●暴風雨被害後報

一昨朝の大暴風雨被害の狀況は前號にて所報の如くなるが難破船三十餘隻の多きに及びたる事とて從て積載貨物等の漂留物夥しく之れを拾得せんとする韓人も數なりしかば仁川署よりは警官數名出張して警戒すると共に貨主をして拾得の便を與へたりと云ふ

●汽車より飛降る

一昨二十九日午前八時三十五分馬山驛發列車進行中德山にて日本人三等客一名列車より飛下り負傷せし旨進永驛長より鐵道廳に通知ありたり

●拾得品屆出

明治町一丁目唐川商店員加勢作藏は去る廿三日午前四時頃同町二丁目警視總監官邸前に於てスコッチ編首卷一筋を拾得し其後屆出を忘却せし處一昨日南部署へ屆出でたり心當りの者は至急申出づ可しと

●一昨夜の新町

遊廓の嫖客數は七十七人散財額四百四圓廿五錢なりと

●花柳だより

昨今の寒さは一入身に泌み候得共當地花柳界のみは中々の好景氣に御座候矢張り冬は肉炬燵に限ると存候▲中券松葉樓で頭は河內屋式なれども座敷の面白さと過般巡業せし大阪相撲の關脇陣幕を下手投にて數回倒したるが呼物となり同券二三の流行妓なりし駒榮事中谷ツルエ（二五）及び有川樓の靑龍事藤岡勇次は共に一昨日限り廢業し井門本店の玉蝶拍子は病氣の爲め休業致し候▲新町遊廓の今日此頃も中々好景氣の由に候、昔しは女郎が客席に侍りし時は一切睡眠致さゞりし由其は客が無理情死を企てる虞れあるが爲めなりしとか、然るに二十世紀の今日では大に改良して客よりは女郎の方が餘計に睡るさのことにて二三日前夜の大雷の折も眼を覺ました女郎とては殆ど無之大方はアノ物音を知らざりしとは某樓主の立話しに候、淸月樓第一の古顏女郎と云へば吉野、稻の桃太郎は近來病氣引籠中の由▲青春樓の一枚蕊妓愉快と云へるは中々の達人で中券邊りでも彼れ位ひの者は指を屈する位の由に候、例の月下樓の町奴事ぼんたは法螺程にも無く餘り振はざるとか、第一樓は近頃多數の新妓を抱へ中々振つてるやに聞及び候（麻雀）

●各警察廳舍の落成

各警察廳舍四十一ヶ所及二十二箇所の大修繕を要すべき廳舍も殆んど落成式……警察署は本年度完成に延期されたり

江原道横城郡横城邑に於ては去る二十……日原州財務署主事出張市場税を徵收……韓人約貨商二十餘名は閉盟休業し威嚇を部衙に欸迫し來りたる……利害を說示したれば之に服し直ちに開店することゝなりて立ち去りたる由

●天氣豫報（……一日午後六時）
北西の風晴
廿九日（攝氏）最高溫度 五四、〇　最低溫度 二二、一

十二月一日　舊十月十八日　五黄　佛滅　乙未

廣告

▲無料紹介欄▼

人事部

●被雇たし 年三十五普通教育あるも他の鑛山事業に多大の趣味を有す如何なる危險も不厭 姓名在社（四八三）
●被雇度 年三十三才貨物取扱及稅關手續に經驗あり英語を解す商店又は會社に雇れたし 氏名在社（四八五）
●女中入用 十五歲以上四十歲以下の上品なる女入用給料は次第保證人を要す（家庭小人數） 龍山老松町三四兒玉
●被雇度 年廿五寫眞術並に測量等に經驗有り 氏名在社（四八七）
●告上原氏 應募申込あれども通知するに由なし往復はがき又は郵劵送付ありたし（係）
●徒弟入用 十三歲より十五六歲迄五六名採用 明治町一丁目 糸山裁縫所
●告ケーヂー生 紙上の匿名は可なるも絕對の匿名にては通信するに由なし故に住所氏名を本欄係宛にて通知ある迄掲載を見合はす（係）

物件部

●貸家 南山町二丁目二階建十疊と三疊と廻椽二階六疊二間廻椽井戸物置湯取付家賃面議 氏名在社（四七八）
●貸家 北部齊洞廿九統四に安價の貸家數間あり御希望の方は同所の内尾に就き間合せあれ
●古新聞 六月後の大阪朝日、大阪每日、京城日報七月後の朝鮮新報取揃原價の半額位にて讓受たし 氏名在社

廣告